

## 浜岡原子力発電所周辺の環境放射線測定結果について

2011年3月16日

当社は、福島県の東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故を受け、環境の放射線の監視として、空気中のちり、ほこり等のサンプリングをおこなっています。昨日採取した試料を分析した結果、ヨウ素、セシウム等の放射性物質が検出されましたので、お知らせします。

なお、浜岡原子力発電所4、5号機は、安定運転を継続しており、放射線モニタ等のパラメータに異常はありません。また、発電所敷地境界付近に設置しているモニタリングポストにおいても、有意な変動はありません。

以上から、本事象は浜岡原子力発電所に起因したものではありません。

### ◆浜岡原子力発電所周辺地域のモニタリングステーション設置場所



### ◆測定データ

(測定期間:2011年3月14日~3月15日の24時間)

放射線物質濃度 測定箇所	ヨウ素 131	ヨウ素 133	セシウム 134	セシウム 137	テクネチウム 99m
佐倉三区	$8.6 \times 10^{-8}$	$9.8 \times 10^{-9}$	$4.2 \times 10^{-9}$	$4.4 \times 10^{-9}$	$1.3 \times 10^{-9}$
桜ヶ池公民館	検出されず	検出されず	$2.8 \times 10^{-9}$	$3.4 \times 10^{-9}$	検出されず

単位:ベクレル<sup>\*1</sup>/cm<sup>3</sup>

1年間この放射線を連続して受けた場合の放射線量を評価した結果、約20マイクロシーベルト(ヨウ素131による評価)であり、これは、通常1年間に受ける放射線量(1260マイクロシーベルト<sup>\*2</sup>)の60分の1程度となります。

※1 ベクレル(Bq)とは、放射能の強さを表す単位であり、1秒間に1つの原子が放射線を出すとき、1Bqの放射性物質があることを意味します。

※2 被ばく線量1260マイクロシーベルト/年とは、国連科学委員会(UNSCEAR)2000年報告であり、自然放射線から受ける線量(1人あたりの年間線量(世界平均))2400マイクロシーベルトの内訳となります。

以上